

園児と楽しく話しながら砂山のトンネル掘りを手伝う生徒



たくさんの兄弟に生徒奮闘

若葉保育園でふれあい学習

若葉保育園(江原澄恵園長、128人)で6月23日から7月1日までの間、御船中学校(加藤敬之校長、495人)の3年生が「ふれあい学習」を体験しました。これは、技術・家庭科の学習の一環で、乳幼児への積極的な保育心を養うための取り組み。園庭で元気いっぱい駆け回る園児たちから、ままごとや砂遊びなどの注文に生徒たちは愛情いっぱいに心から応えていました。同校の丹生佳那さん(木倉)は「いっぱい兄弟ができた感じ。(園児が)ひとつひとつのことを頑張るしぐさがかわいいです」と話していました。

御船川の鮎は「うまかばい」

鮎釣り研究会がオアシスに鮎寄贈

御船鮎釣り研究会(森田林一郎会長)が6月4日、養護老人ホーム「オアシス」(芥川弘園長、41人)を訪れて鮎150匹を贈りました。同会は、6月1日からの鮎釣り漁解禁にあわせて御船川一帯を拠点に活動し、友釣りと呼ばれる手法で鮎釣りを楽しんでいます。森田会長は「今年は(鮎の)型もよく例年よりも釣れています。御船川で釣れた新鮮な鮎を食べてもらえれば」と話していました。同研究会では、会員の高齢化による減少で、現在7人で活動中。御船川を誰よりも熟知する同会を存続するため会員を募集しています。



御船鮎釣り研究会から新鮮な鮎を代表で受けとる吉澤武雄さん



「ほ〜ほ〜ほたるこい」のうたに合わせ、太鼓をたたく児童

ホタル舞うふるさとまつり

水越「ホタルを見る会」

ホタルの里として知られる水越地区で「ホタルを見る会」が開催され、町内外から多くの鑑賞客でにぎわいました。公民館水越分館(岩崎泰三分館長)が地域活性化の一環で開催し、今年で16回目。旧水越体育館では滝尾小5年生児童の発表や同地区有志の「風神太鼓」の披露。今年は上野地区古閑迫の寅舞保存会(河部一光会長)による寅舞が披露され、町内の地域の伝統を知る機会にもなったようです。辺りも暗くなってきたところで水越川周辺へ移動し、田んぼや遊歩道を歩きながらホタルの放つ美しい光に歓声を上げる鑑賞客たち。初夏の自然の風物詩に酔いしれるひとときとなりました。同地区ではホタルの生息を保つため、地域全体で自然環境の保護に努められています。

雄大な自然の棚田で田植えを体験する児童たち



手作りの看板が完成

高木小学童うさぎクラブ看板製作

高木小学童うさぎクラブ(酒井善隆会長)で6月6日、児童と保護者で施設の環境整備と看板作りが行なわれました。同クラブは平成15年に発足し、今年で8年目を迎え、児童が安心して過ごせるように環境整備などにも配慮されています。この日は古くなった看板の作り替え。児童と保護者が協力しながらペンキで文字や模様を描き、手作りの看板が完成しました。看板は施設横に設置され、児童たちを温かく迎えてくれます。学童クラブは町内6箇所で運営され、放課後児童が安心して過ごせる場所として利用されています。



できあがった看板をかこんで記念撮影

地域の宝は地域全体で守る

木倉小防犯ネットワークに県表彰

このほど、木倉小学校区防犯ネットワーク(牧博幸代表)に熊本県防犯協会連合会と熊本県警察本部長から表彰状が授与されました。この表彰は、犯罪予防や青少年健全育成など地域の安全活動に貢献した団体に贈られるもの。同ネットワークは、学校や家庭、地域が連携して、児童生徒を犯罪から守り安全で安心した校区づくりを目指す組織として、平成17年に発足。木倉校区の区長や公民館長、老人会など、団体の代表18人で構成しています。主な活動は、児童生徒の登下校時の安全パトロールやPTA広報誌での啓発、防犯ネットワーク集会などを実施して、防犯体制がしかけています。田上忍副会長は「校区全体で開けるイベントや子どもへの声かけを行い、地域の子は地域で守るような環境をつくっていかねば」と話していました。



地域で犯罪が発生しないよう昼夜を問わない精力的な活動が高く評価されて表彰を受けた木倉小学校区防犯ネットワークの代表18人

おいしいお米ができますように

上野地区八勢交流田植え

上野地区八勢の棚田で6月22日、健軍東小学校(熊本市)の5年生が田植え体験をしました。同地区と健軍東町自治会は10年前から交流し、児童の田植えは初めての試み。田んぼの感触に慣れない様子で苗を植える児童もこつをつかむと笑顔がこぼれていました。「転勤家庭の多い児童たちに自然に触れ、おもいっきり体験してほしい」と話される鶴田孝三校長。苗は秋まで地域で管理され育てられます。牛嶋清一区長は「お米は秋まで大切に育てます。稲刈りを楽しみにしてください」と児童たちに話されました。